

笑う秋には福が来る

大盛況の町民まつり

第三十二回くずまき町民まつり（第十回産業まつり、第十七回生涯学習フェスティバル、第十八回健康福祉まつり）は十月二十一日と二十二日の両日、社会体育館とモウモウ館を主会場に開かれました。多彩なイベントが催される会場には、昨年を上回る延べ七千二百人が訪れ、活気にあふれました。今年も、新たに二つのキャンペーンを企画。地産地消キャンペーンとして、町民まつりのチラシを持って来場した人に、産業まつり委員会が用意した牛乳千五百本が

無料で振る舞われました。環境に優しいキャンペーンでは、地球温暖化防止に少しでも貢献しよう、臨時バスの運行やリサイクル活動実践のために割りばし回収箱が設置されました。天候に恵まれた二日間。来場者は、踊りや歌のステージショー、作品展示や遊びの体験コーナー、そば打ち体験、郷土料理コーナーなどお目当てのコーナーを存分に楽しみました。

各地区の工夫を凝らしたうまいものが勢揃い。昼時には、一番のにぎわいを見せました。



郷土料理コーナー

遊びの体験コーナー
中高生ジュニアリーダーによる手遊び歌や紙芝居が大人気。かわいいうまいものが勢揃い。昼時には、一番のにぎわいを見せました。



タイムサービス

お目当ての商品をゲットするため、ジャンケン大会はどの時間帯も長蛇の列。



割りばし回収箱

会場で2,075膳分の割りばしを回収しました。製紙原料の一部に再利用され、はがき約700枚に生まれ変わります。



モウモウ館会場（JA新いわて）

JA女性部（五日市）が共進会の様子を喜劇にした「モウモウ共進会だよ〜ん」を葛巻弁で熱演。ベゴに見立てたお姉様たちの腰つきを審査し、見事な掛け合いで会場は笑いの渦。



地産地消キャンペーン

今回の目玉企画は、会場で無料配布された「くずまき高原牛乳」。牛乳好きには、モ〜たまりません。



生涯学習フェスティバル・作品展示

さき織りや切り絵、絵画などの力作が訪れた人たちの足を止めました。

花嫁着付け 日本一

日本美容技術選手権大会で栄冠



栃丸 保子さん
（36歳・城内小路出身）

美容界で最大規模となる第三十四回全日本美容技術選手権大会（全日本美容業生活衛生同業組合連合会主催）は十月十七日、岩手産業文化センター「アピオ」で開かれ、栃丸保子さん（旧姓志田）が見事、日本大賞に輝きました。

大会は、ヘアスタイル競技など七部門。栃丸さんが出場した「花嫁化粧着付け競技」はその中でも最高位の部門で、全国から選ばれた精鋭二十八人が日本一の座を競い合いました。全国大会への出場は三回目。

昨年は同じ花嫁着付けの部で七位入賞。今年は約一カ月半、練習に集中できるようにと家族が住む盛岡市の自宅を離れ、愛媛県の先生のもとで練習を重ねました。家族の理解と協力、こういう場を与え、支えてくれたスタッフや周りの人々のおかげと感謝し、地元岩手で優勝できた喜びをかみしめています。

さまざまな仕事を経験し、最終的にたどりついたのが、小さいころから見て育った美容師の仕事。現在、実家が経営するフサ美容室（新町）の婚礼部門を担当しています。

一流の技術でお客様に満足してもらうため、恒にチャレンジ

精神を忘れない栃丸さん。

「お嫁さんからたくさんの幸せをもらっています。その人が思い描く姿をイメージどおりに仕上げ、喜んでもらえたときが一番うれしい。わたしにやってみてほしいという人が増えたらいいな」と明るく笑います。



振袖着付けから帯結びまでの制限時間は20分。競技に臨む栃丸さん